

延岡市地域公共交通網形成計画（2019-2023）

～多様な主体による地域交通の全体最適化に向けた挑戦～

人口減少、自家用車を優先とした暮らしの浸透などにより存続が難しくなっている公共交通機関。しかし、高齢者をはじめとする市民の通院・買い物、児童や生徒の通学、通勤、来訪者の移動などに使用される大切な財産です。将来にわたって延岡市の豊かな暮らしを支えるモビリティを守っていくため、公共交通の再生プロジェクトに取り組みます。市民や来訪者が自家用車へ過度に頼らずに自由に行動できる延岡のまちを実現する取り組みを目指します。

地域の将来像 / 地域公共交通が果たすべき役割

将来都市像 市民力・地域力・都市力が躍動するまち のべおか

- 都市計画等との連携
集約された将来都市像の実現
- 広域的な方針との連携
定住自立圏の共生など
- まちづくりとの連携
商業/観光/離島振興/福祉など

公共交通の役割

- 利便性の高いネットワークで市内拠点間を結び
- 生活基盤として市民生活に必要な移動をサポート
- 空白地域/離島の暮らしの生活利便性を確保する
- 広域的な定住自立圏の結びつきを支える
- 過度な自家用車利用を抑制する
- アクセスに寄与し中心市街地の賑わいを支える

延岡市の地域公共交通を取り巻く課題

地域の特性

- 1) 人口減少・長寿社会に対応するための公共交通網の確保・維持**
 - 高齢化が進行した長寿社会の暮らしを支える生活環境の確保
 - 人口減少・少子高齢化の影響を受ける地域社会への対応
 - 市内に分散する低密度な居住地への対応 ○地域生活拠点の利便性確保

提供サービスの視点

- 2) 公共交通の維持に向けた収支の改善**
 - 生活路線維持に向けた収支改善による持続性向上（運行補助約1.5億円）
- 3) 利用が低迷する路線の解消**
 - “乗合交通（2人以上で乗り合う）”の機能が不十分な路線の運行改善
- 4) 提供サービス水準の適正化**
 - 利用低迷路線のニーズ等に応じた運行形態の見直し、空白地域の解消
- 5) サービスの非効率（重複）区間の解消**
 - 外出ニーズの重なる市街地でサービス非効率（重複）区間の運行ダイヤ改善

まちづくり・ニーズの視点

- 6) 市民の生活行動に応じた運行サービスの確保**
 - 生活行動上の目的地や時間に応じた経路の選定や乗り入れ確保 など
- 7) 中心市街地のアクセス・回遊を支えるサービスの確保**
 - 中心市街地の生活利便性の確保、北部・南部市街地のサービス格差是正
- 8) 市民が求めている乗り継ぎ利便性の改善**
 - 乗り継ぎ機能・乗り場環境の充実、列車⇄路線バスのすれ違い解消 など
- 9) 観光客等の来訪者が利用しやすいサービスの確保**
 - 観光客・来訪者が利用しやすい運行の改善、利用増進に向けた企画実施

暮らし・意識の視点

- 10) 利用者に届くわかりやすい情報案内の充実**
 - 利用しない人が利用を敬遠する原因や利用する際の不安などの払拭
- 11) 自家用車への依存度が高い市民に選んでもらうための利用促進**
 - 自家用車利用の依存解消、免許返納の支援、利用のキッカケづくり など
- 12) 公共交通を利用する暮らしの定着を図る利用促進**
 - 公共交通を適度に利用する習慣の定着、暮らし・生活行動の転換

関係者連携の視点

- 13) 公共交通の維持に向けた地域関係者との連携の促進**
 - 関係部署・施設などの関係者との連携促進、連携による利用促進の強化
- 14) 将来の交通サービスを支えていく担い手の創出**
 - 将来の交通サービスを担う担い手の創出（乗務員等の確保支援）
- 15) 地域から求められる市民連携への対応**
 - 市民ニーズで挙がる「市民連携」を実行していくための仕組みの構築

基本理念

将来に持続可能な市民や来訪者の安心・快適なモビリティの再構築

これまでモビリティの技術革新や社会インフラ整備の進行に伴い、快適で自由に移動できる自家用車が普及し、市民に豊かな暮らしをもたらしました。しかし反面、自動車を優先とした暮らしが浸透し続けた結果、公共交通の利用者減少・サービス低下を引き起こし、公共交通が必要な人の利便性低下、サービスの届かない交通弱者の増加といった問題に直面しています。現状の厳しい経営環境では利用がなければ路線存続は厳しく、都市の仕組みとして必要な公共交通を将来に残していくための転換が求められています。

本計画では、中心市街地・地域生活拠点に合わせ、持続可能性を高めるための公共交通ネットワークの効率化を図るとともに、使う人（市民・来訪者）が必要とするモビリティに合わせたネットワークの最適化を目指します。併せて、サービスの見直しと同時に、本市と関係する多様なパートナーと連携した利用促進を進め、市民・来訪者が自家用車へ過度に依存せずに行動できるまちの実現を目指します。

「モビリティ」という言葉

まち全体の“移動(人の動き)”を表す言葉としてモビリティという言葉を使用しました。

日常の暮らしのなかで、単に公共交通サービスのみとは限らず、自助・共助の助け合いなどを含め、自由で多様な人の動きが広がる延岡のまちを理想とします。

4つの基本方針と計画目標

基本方針1 将来にわたり長寿社会の暮らしを支えるネットワークの最適化

- 目標1 都市の基軸となる広域幹線交通・海上交通の持続的な確保
- 目標2 将来への持続可能性を高める市内ネットワークの転換
- 目標3 市内生活圏・定住自立圏を支える中心市街地機能の充実
- 目標4 中山間地域等における公共交通サービスの維持

路線維持

路線維持

ネットワーク改善

ネットワーク改善

ネットワーク改善

サービス改善

ネットワーク改善

サービス改善

- 1 生活利便性を支える広域幹線交通・離島航路の確保・維持
- 2 路線毎の役割に応じた幹線交通・支線交通の確保・維持
- 3 利用低迷路線の利用実態・ニーズに応じた運行サービス適正化
- 4 乗合タクシー等の持続性を高めるための運行形態の見直し
- 5 タクシー等を活用した公共交通空白地対応の移動サポート
- 6 運行サービスの非効率解消に向けた重複運行の見直し
- 7 居住者の生活行動に応じた市街地運行路線の再編
- 8 市街地内エリア制運賃の導入検討

実施事業

基本方針2 市民・来訪者が利用しやすい市内乗り場環境の充実

- 目標5 多様な公共交通が有機的につながる交通結節点の充実
- 目標6 周辺関係者と協力した利用しやすい市内乗り場の増加

拠点機能強化

拠点機能強化

拠点機能強化

拠点機能強化

- 9 交通結節点等の主要な乗り場機能の整備
- 10 周辺施設・コンビニ等と連携した乗り場環境の改善
- 11 JR延岡駅における路線バスと列車のすれ違い解消
- 12 来訪者の視点からみた路線バス等の発着ダイヤの改善

基本方針3 将来に必要なモビリティを再認識する利用促進の推進

- 目標7 市民自らが利用しようと思う公共交通利用の意識転換

情報案内充実

利用促進策

利用促進策

利用促進策

- 13 公共交通利用に必要な情報案内の充実
- 14 市民等の目に触れる機会を増進する情報発信・PRの強化
- 15 来訪者や市民に利用のキッカケをつくる利用促進企画
- 16 各ターゲット層に焦点を当てたモビリティマネジメントの展開

基本方針4 多様なパートナーとの連携による“新たな地域交通”づくり

- 目標8 持続可能な公共交通を目指す連携事業の機運向上

連携事業

制度創設

連携事業

ネットワーク改善

- 17 関係者との連携を通じた利用促進企画の推進
- 18 民間ノウハウ・活力の活用に向けた提案型事業の創設
- 19 将来の公共交通サービスを支える担い手の創出
- 20 市民協働による地域の移動手段の確保・協働体制の構築

目標を達成するための実施事業（2019-2023）

～多様な主体による地域交通の全体最適化に向けた挑戦～

《拠点形成》

- ：中心市街地
- ：地域生活拠点

《ネットワーク》

- ：広域幹線交通(鉄道)
- BS：広域幹線交通(高速バス)
- ←：海上交通(離島航路)
- ←：支線交通
- ▨：幹線交通(拠点間)
- ←：市街地内アクセス
- ▨：準幹線交通(居住地-中心市街地)

2 路線毎の役割に応じた幹線交通・支線交通の確保・維持 **路線維持**

- 幹線交通（路線バス）、支線交通（バス・乗合タクシー等・タクシーなど）の運行支援、情報発信・利用促進に取り組みます。
- 幹線や支線など、各路線の役割に応じた運行サービスの維持・確保を進めます。

3 利用低迷路線の利用実態・ニーズに応じた運行サービス適正化 **ネットワーク改善**

- 利用低迷路線（図中③）は、沿線地区との意見交換を通じて利用ニーズ等を踏まえた運行サービスの見直し・適正化を図ります。
- 唯一の温泉がある祝子川線は生活・観光の相互利用から路線維持に取り組みます。

5 タクシー等を活用した公共交通空白地対応の移動サポート **ネットワーク改善**

- 市街地の外縁に点在する公共交通空白地を対象に、市民主体によるタクシー等の移動サポート策を検討していきます。

6 運行サービスの非効率解消に向けた重複運行の見直し **ネットワーク改善**

- 市街地と郊外のニーズのバランスを考慮しながら、サービス時間が重複するダイヤの改善を図ります。

13 公共交通利用に必要な情報案内の充実 **情報案内充実**

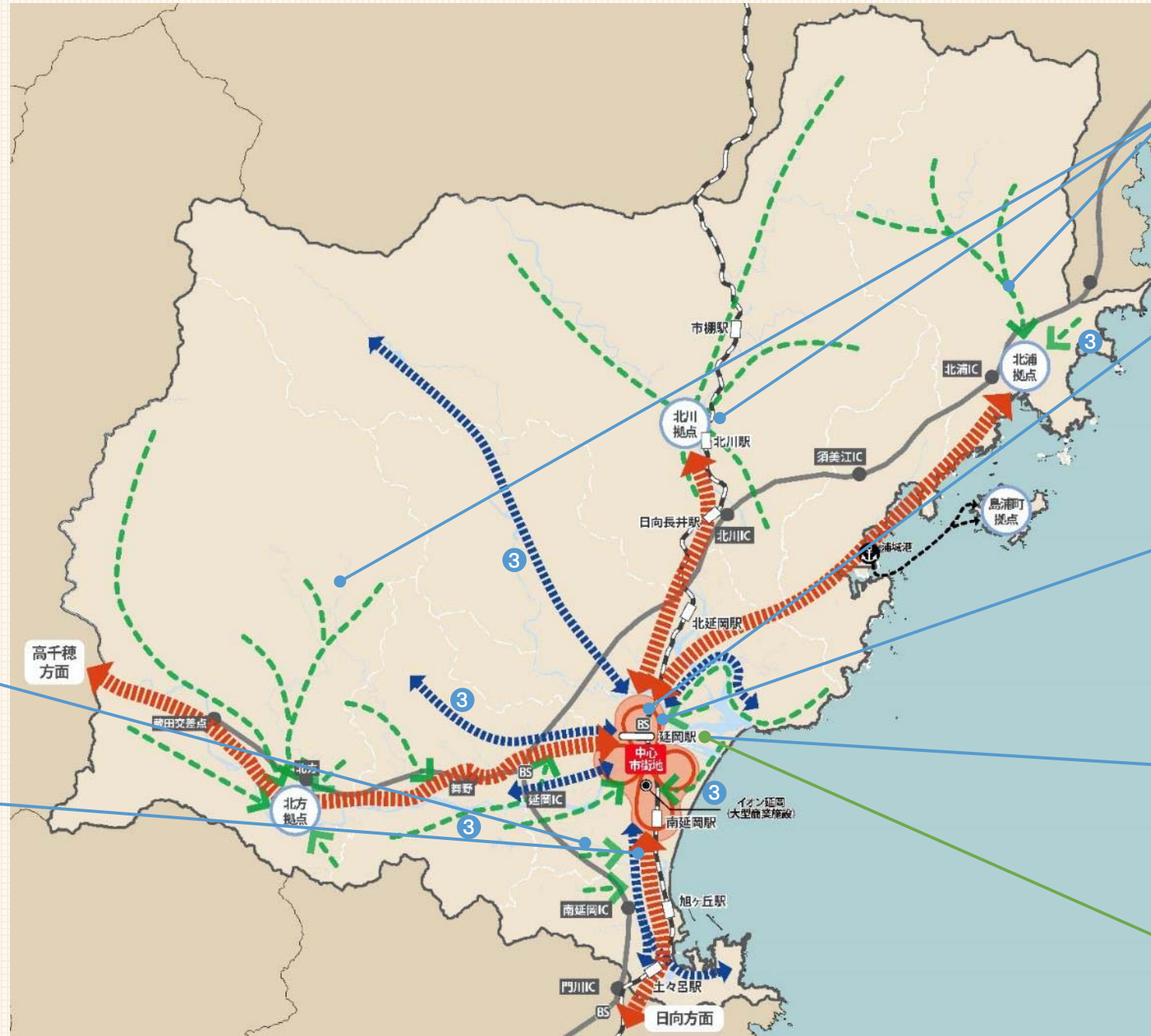
- 必要な情報がわかりやすく・入手しやすい環境に向けて、HP・SNS・スマホ、紙面等の様々なツールで情報を発信していきます。
- エリア別案内マップを製作・発信、路線ナンバリングの情報発信の強化に取り組めます。

14 市民等の目に触れる機会を増進する情報発信・PRの強化 **利用促進**

- 既存制度・割引等のプロモーション強化、市内イベント等での利用促進を充実します。

15 来訪者や市民に利用のキッカケをつくる利用促進企画 **利用促進**

- 観光モデルコースの案内マップ、市内散策バスパックなどの製作・発信、タクシー利用による観光アクセスのPR等を推進します。



16 各ターゲット層に焦点を当てたモビリティマネジメントの展開 **利用促進**

- 学生向け/主婦向け/高齢者向けのお出かけ企画、事業所のエコ通勤等を充実します。
- 自動車学校等と連携した高齢者への案内企画、免許返納特典の検討などを行っていきます。

20 市民協働による地域の移手段の確保・協働体制の構築 **ネットワーク改善**

- 市民協働を実行していくための地域協議組織等の整備、公共交通サポーター制度の構築を行います。
- 市民主体による地域の移手段確保を推進し、運行評価の仕組み（トリガー制度）を併せて構築します。

17 関係者との連携を通じた利用促進企画の推進 **連携事業**

- 地域包括支援センターや関係部局、市民の外出先となる施設関係者等との連携による利用促進・お出かけ企画を行っていきます。

18 民間ノウハウ・活力の活用に向けた提案型事業の創設 **制度創設**

- 市民協働と合わせた民間ノウハウ活用の提案型事業を展開します。

19 将来の公共交通サービスを支える担い手の創出 **連携事業**

- 公共交通を担う職種の仕事内容PR、相談・体験会等を支援します。

4 乗合タクシー等の持続性を高めるための運行形態の見直し **ネットワーク改善**

- 乗合タクシー等は、地域座談会を通じた新たな地域交通の検証・見直し、予約制（デマンド）の試行に取り組みます。
- 生産性向上に向けて、貨客混載モデル（鹿川線 先行）、スクールバス混乗（一部）の試行を行います。

7 居住者の生活行動に応じた市街地運行路線の再編 **ネットワーク改善**

- アクセスしやすい移動環境の実現に向け、居住地と病院・スーパー・駅とを結ぶ市街地路線の再編に取り組みます。
- 市街地内の病院移転などに対応した路線の改善を行います。
- 市民意見・要望が集まるまちなか循環バスの更なる利用増進に向け、時間拡大等の試行・ニーズの検証を行います。

8 市街地内エリア制運賃の導入検討 **サービス改善**

- 利用者にとってわかりやすい（安心して利用できる）運賃体系を目指し、市街地エリア制運賃の導入を検討します。

1 生活利便性を支える広域幹線交通・離島航路の確保・維持 **路線維持**

- 鉄道及び高速バスの継続的な維持に向けた情報発信や利用促進、離島航路の運行支援に取り組みます。
- 市内散策パックやPR・観光コンテンツの発信などを含め、利用の目的づくりとなる利用促進企画を展開します。

9 交通結節点等の主要な乗り場機能の整備

- 市民ニーズが高い乗り継ぎ機能を強化するため、延岡駅の案内や乗り場を充実します。
- 人が集まる拠点施設等と連携し、市南部路線等が接続する乗り場の整備を行います。

11 JR延岡駅における路線バスと列車のすれ違い解消

- 延岡駅での列車と路線バスのすれ違い解消に向けて乗り継ぎダイヤの改善を行います。

12 来訪者視点からみた路線バス等の発着ダイヤの改善

- 延岡駅に訪れる来訪者が市内の散策等に公共交通を利用しやすい乗り継ぎダイヤの改善を行います。

拠点機能強化

10 周辺施設・コンビニ等と連携した乗り場環境の改善 **拠点強化**

- 周辺施設・コンビニ等との連携しながら、高齢者等にも利用しやすい乗り場の待合環境の充実を目指して取り組みます。